

〔資料〕

日韓のお金の「あげ方」に対する 意識に関する調査

－自身の両親、配偶者の両親へのお金の包み方を中心に－

大池 森 渋谷 雅円

要旨

本稿はお金をあげる場面、特にお金を包むことについて、日韓における意識の違いについて把握することを目的とし、日本人ならびに韓国人それぞれに調査を行った。お金をあげる対象を自身の両親、配偶者の両親、金額を少額の5千円（韓国は5万ウォン）に設定し、お金をあげる際にはお金を包むか否か、もし包む場合はどのような包み方をするのか、またその理由について、アンケート調査を実施した。

その結果、日本人、韓国人いずれも自身及び配偶者の両親に少額のお金をあげる際には「お金を包む」意識を持っている割合が高いことが分かった。ただし、お金を包む封筒の種類には日韓で意識の差が見られた。日本人は用途に合った封筒に入れる傾向があるのに対し、韓国人は多用途の封筒、用途に合った封筒の使用区別にはそれほど差が見られなかった。また、銀行の封筒を使用する意識を持っている回答者も一定数見られた。

次に、自身の両親に少額のお金をあげる場合、日本人はお金を包む意識を持った回答者が多かった一方で、何も包まずにお金をあげる意識を持つ回答者も少なからず見られた。それに対し、韓国人はお金をなにかしらに包んでからあげるといった回答に続き銀行口座に振り込む、といった意識を持つ回答も見られた。

以上から、日本人は封筒に入れてお金をあげる際には、手間を惜しまず見栄えを重視し、韓国人はスピードや手軽さといった利便性を重視する傾向がうかがえた。

ただし、本稿では金額が比較的少額であったことから、金額によっても結果が異なることが予想された。また、お金をあげる対象を自身及び配偶者の両親に限定したため、その対象によってあげ方がどのように変わるかについては今後の課題となった。

【キーワード】日韓比較、異文化接触、接触場面、金銭授受、お金の包み方

1. はじめに

韓国で生活経験のある筆者らが、在韓日本人として様々な文化的差異を感じることのひとつに、お金の受け渡し場面がある。例えば結婚式での祝儀の渡し方について述べると、韓国の結婚式場の受付では無料で封筒をもらうことができる。そして出席者は封筒を事前に準備せず、同じく受付に置いてあるボールペンやサインペンなどで名前を書いて渡す光景をよく目にする。韓国人から見れば合理的に見えるこの行動も、日本人から見れば非礼に映る可能性がある。

一方、日本の結婚式では祝儀袋をあらかじめ用意し渡すのが一般的である。しかし韓国人か

ら見ると、中身のお金よりも袋自体に気を遣いすぎており、人によっては無駄に感じられたり、仰々しく見えたりする可能性もある。こうしたことから、日本人と韓国人との間のお金の受け渡しの場面では、お互いの文化意識を知らなければあらぬ誤解が生じることもあるだろう。

そこで本稿では、お金をあげる（渡す）いくつかの場面を設定した。それらの場面において日本人、韓国人それぞれがお金を包むか否か、包む場合はどのような包み方をするのか、またその理由について比較をした上で、お金のあげ方（包み方）意識の違いを明らかにすることを目的とする。これにより、日韓の異文化接触により生ずる可能性がある摩擦と、それに伴う誤解を解消する一助となることを目指す。

2. 先行研究

まず、日本の包む文化に関する日本人による研究としては、深澤他（2007）、松本（2011）等が挙げられる。深澤他（2007）では「風呂敷」に着目し、風呂敷とそれに関連する包みの文化について歴史的に考察している。その中で、風呂敷によって「包まれるもの」を幾重にも包み覆う行為を、「包まれるもの」を大切に保持しようとする「ものへの慈しみ」の表れだと見なしている。また、松本（2011）は、具体物としての贈り物が持つ包装と中身という構造的特性に着目し研究を行った。その結果、具体物は包まれることにより、物そのものだけでなく相手の心（心の空間）を含んだものへと変形されると説き、包装を施された物は「贈り手の心の空間を包んだもの」として捉えることを貰い手に要求していると結論づけている。

次に、日本の包む文化に関する韓国人による研究としては、정・김（2012）、임（2008）等がある。정・김（2012）は、日本の包装文化の形成背景について、歴史的及び社会的観点から考察を行った。本来、包装は物を保護するという機能を担っていたが、時代とともに保護から

商品性という機能へと変化し、現在では包まれる内容物よりも包装が重要な要素となっていると指摘している。次に、임（2008）は日本の包装文化について考察を行い、その中で金銭の包装に言及している。日本の祝儀袋、お年玉袋、お車料封筒等、用途に応じた袋の存在とその種類の豊富さに触れており、その要因として日本が形式を重んじる文化だと述べるとともに、日本では金銭を包まずに渡すことは相手に失礼となり、落ち着かない行為なのであろうと考察している。

さらに、日韓の包装文化を比較した研究も見られる。박（2000）は日中韓3か国の包装文化に関して衣服や食、金銭等の観点から比較を行った。その中で、韓国や中国はシンプルな包装を好み、包装よりも内容物を重視する点において共通しているのではないかと指摘している。日本の「物を幾重にも重ねて包む」行為は、内容物を丁重に扱い誠意を込めることを表し、「心」という付加価値を生み出すと分析しながらも、これは韓国人としては理解しがたいと述べている。

以上、先行研究を概観したが、お金をあげる場面における包装の有無、包装の仕方、およびその理由に関する量的調査を日韓で比較研究したものは、管見の限りでは見当たらない。

3. 調査の概要

3.1 調査の目的

本稿における調査は、お金をあげる¹対象（自身の両親、配偶者の両親）及び金額（日本：5千円、韓国：5万ウォン）²毎に異なる2つの場面を設定し、日韓でのお金のあげ方とその理由について比較することとする。それらの結果から、日本人、韓国人それぞれがお金をあげる際にそのあげ方にどのような違いがあるのか、またそれらの違いによってどのような誤解が生じる可能性があるのかを明らかにすることを目的とする。

3.2 調査方法

日本人および韓国人が、自身の両親と配偶者の両親へどのようにお金をあげるのか、またその理由を量的に把握するため調査を行った。調査方法は以下の通りである。

・調査期間：2017年3月1日から5月31日まで

・調査対象：

①日本人³…韓国での長期滞在経験及び韓国人との婚姻歴がない30代以上⁴の日本人。

②韓国人…日本での長期滞在経験及び日本人との婚姻歴がない30代以上の韓国人。

・調査実施方法：

同じ調査内容をアンケート方式で、日本人には日本語、韓国人には韓国語で実施した。

・お金をあげる場面としては、以下の2つの場面を設定した。なお、本稿は金銭の受け渡しや貸し借りではなくお金をあげる場面に焦点を当てるため、その際に想定される対象（両親）を設定した。

場面1：自身の両親に現金5千円（韓国5万ウォン）をあげる場合

※おこづかい、誕生日、交通費、食事

代など、場面を自由⁵に設定

場面2：配偶者の両親に現金5千円（韓国5万ウォン）をあげる場合

※（場面1に同じ）

設問は、以下の二つを設けた。

(1) あげ方（複数回答）

- ①イメージがわからない。
- ②用途に合った封筒に入れる。
- ③多用途の封筒（白封筒等）に入れる。
- ④銀行の封筒に入れる。
- ⑤封筒以外のものに入れる。（何に入れるか）
- ⑥何にも入れずにそのままあげる。
- ⑦相手先の銀行口座に振り込む。
- ⑧現金書留で送る。
- ⑨その他（自由回答）

(2) 理由⁶（複数回答）

選択肢

- ①皆がそうしているから。
- ②礼儀だから。
- ③見栄えがするから。
- ④封筒には意味がないから。
- ⑤相手の負担を減らすため。
- ⑥自分の負担を減らすため。
- ⑦その他（自由回答）

1 「あげる」を使用した理由については、アンケート用紙の質問項目を統一させるため、便宜上「渡す」ではなく「あげる」を使用した。「渡す」は物の移動を表し、所有の意味を含まないためである。

2 自身の両親、配偶者の両親に小遣いや交通費等、お金をあげる様々な状況を考慮した結果、5千円（韓国は5万ウォン）を少額としてみなすことが妥当だと考えた。よって本稿ではこの金額を少額とみなすこととする。

3 お金を包む文化的背景が混在する可能性があるため、在日外国人は調査対象から除外した。

4 「配偶者の両親」にお金をあげるという場面を設定するため、現実的にこうした場面に遭遇する可能性が高いであろう30代以上を対象とし、調査を実施した。

5 アンケート作成時において自身の両親、配偶者の両親いずれに対しても5千円（韓国は5万ウォン）をあげる状況は日常生活でおこづかい、誕生日、交通費、食事代などが想定された。そのため回答者個人で自由に設定できるよう、設問を複数回答とした。

4. 日韓のお金のあげ方についての意識に関する調査結果

ここでは、3章で行ったアンケート調査の結果について述べる。またその結果を元に、日韓のお金のあげ方に対する意識について分析を加えることとする。なお、調査結果に関する分析に関しては、日韓共に割合が10%以下の回答については少数回答とみなし本稿では扱わないこととする。また本稿で扱う自由回答については原文のままとする。

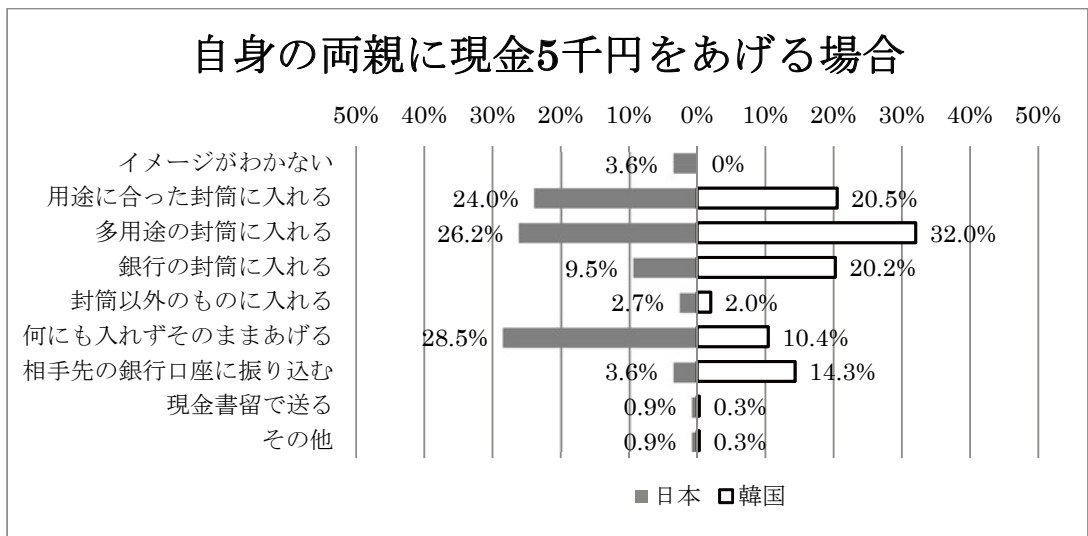
4.1 回答数とその属性

本調査における日本人の回答者数は計144名で、男性40名、女性104名であった。年代別に見ると、1930年代が2名、1940年代が5名、

1950年代が35名、1960年代が34名、1970年代が40名、1980年代が28名であった。一方、韓国人の回答者数は計167名で、男性60名、女性107名であった。年代別に見ると、1930年代が0名、1940年代が3名、1950年代が24名、1960年代が46名、1970年代が35名、1980年代が59名であった。

4.2 場面1「自身の両親に現金5千円をあげる場合」の日韓意識

場面1「自身の両親に現金5千円をあげる場合」のあげ方について、日本人回答者144名からのべ221件、韓国人回答者167名からのべ356件の複数回答を得た。結果は図1のとおりである。



<図1>自身の両親に現金5千円をあげる場合

日本人の回答で最も多かったのは、「何にも入れずそのままあげる」が63件（28.5%）であった。次に「多用途の封筒に入れる」が58件（26.2%）、続いて「用途に合った封筒に入れる」

が53件（24.0%）であった。これら上位3位までの回答件数を合計すると78.7%となり、8割弱を占めた。その他、「銀行の封筒に入れる」21件（9.5%）、「イメージがわからない」8件（3.6%）

6 「(2) 理由」は、「(1) あげ方」の各選択肢の右横に各々回答欄を設け、それぞれの「あげ方」に対してその「理由」を回答できるようにした。

という結果となった。

一方、韓国人の回答で最も多かったのは、「多用途の封筒に入れる」114件（32.0%）であった。次に、「用途に合った封筒に入れる」が73件（20.5%）、続いて「銀行の封筒に入れる」が72件（20.2%）、「相手先の銀行口座に振り込む」が51件（14.3%）、「何にも入れずそのままあげる」が37件（10.4%）であった。これら上位5位までを合計すると97.4%となり、回答の大部分を占めた。

これらの結果から、日韓で回答が共通している項目は、「多用途の封筒に入れる」「用途に合った封筒に入れる」であり、共に2～3割程度の回答であることから、多用途にせよ用途に合った封筒にせよ、日本人、韓国人それぞれが自身の両親に現金5千円をあげる際にはお金を包む意識を持っていることが分かる。

それに対し、日韓で回答に違いが見られる項目について述べる。まず「何にも入れずそのままあげる」について日本人からは3割弱の回答

が得られたのに対し、韓国人からは1割程度の回答しか得られなかった。つまり、韓国人に比べ日本人の方が自身の両親に対しお金を包まずにそのまま渡す意識を持っている回答者が多いことがうかがえる。

次に「銀行の封筒に入れる」について、韓国人では約2割の回答が得られたのに対し、日本人では1割弱の回答しか得られなかった。そのため韓国人の方が自身の親にお金をあげる際に銀行の封筒を使用する傾向があることが分かる。

さらに「相手先の銀行口座に振り込む」については、韓国人の回答では15%弱だったのに対し、日本人では4%弱しか見られなかった。このことから自身の親にお金をあげる際に韓国人の方が日本人に比べ銀行口座に振り込む傾向があることが分かる。

4. 2. 1 場面1に対する日本人の回答理由

場面1「自身の両親に現金5千円をあげる場

<表1> 場面1の日本人の回答（何にも入れずそのままあげる）理由

① 封筒に入れる 必要がないから	②封筒に入れるこ とが不自然だから	③急ぎだから	④ 少額だから
<ul style="list-style-type: none"> ・ 親しい間柄なので ・ 自分の親なので気軽にあげられる ・ 飾る必要はないから ・ 同居しているので何も入れる必要がないかなど ・ 気兼ねする間柄でもない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 封筒だとあらためた感じがする ・ その場で使ってもらうため ・ 堅苦しくなるから 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 突発的な時は入れない ・ 急で何も封筒を準備していない時 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5千円ぐらいなら手渡しでOK
※複数の理由が含まれる回答 ①封筒に入れる必要がないから＋④少額だから <ul style="list-style-type: none"> ・ 親に対して5000円ぐらいなら袋に入れたことがない ・ 封筒に入れる必要のない金額だから ③急ぎだから＋④少額だから <ul style="list-style-type: none"> ・ 場合によっては…封筒がなかったり急だったり。金額が少ないので ⑤ 封筒に入れることが不自然だから＋③急ぎだから＋④少額だから <ul style="list-style-type: none"> ・ 気軽に渡せる名目と金額ならそのままでもいいし、相手も受け取りやすいと思う 			

合」に対する理由について、日本人の回答結果を見てみる。

まず、日本人の回答で最も多かった「何にも入れずそのままあげる」理由について、複数回答76件を順に、1位「その他」22件（28.9%）、2位「封筒には意味がないから」21件（27.6%）、3位「自分の負担を減らすため」16件（21.1%）、4位「相手の負担を減らすため」14件（18.4%）という結果となった。

最後に「何にも入れずそのままあげる」で「その他」を選んだ理由については表1のとおりである。

「その他」を選んだ理由については表1のとおり、①封筒に入れる必要がないから、②封筒に入れることが不自然だから、③急ぎだから、④少額だから、の4種類に分類できる。なお、回答によっては、複数の理由にまたがる回答も見られた。

2番目に回答が多かった「多用途の封筒に入れる」理由については複数回答83件中、1位から順に「礼儀だから」30件（36.1%）、2位「見栄えがするから」12件（14.5%）、2位「封筒には意味がないから」12件（14.5%）という結果となった。最後に「多用途の封筒に入れる」で「その他」を選んだ理由として、自由回答から「（あげる金額が）高額ではないのであるものを使う。でも銀行の封筒は適当でない気がする」「別に買うほどではないから」といった、特に用途にあった封筒を購入する必要はないといった回答、また「そのままでは露骨だから」「身内とはいえ、金額が分かるような形で渡すといやらしい気がする」といった、マナーに関する回答や「食事代等は慶弔と違い専用の封筒がないため」といった、選択の余地がないため使用しているといった回答が見られた。

3番目に回答が多かった「用途に合った封筒に入れる」理由については複数回答70件中順に、1位「礼儀だから」41件（58.6%）、2位「見

栄えがするから」17件（24.3%）という結果となった。最後に、「用途に合った封筒に入れる」で「その他」を選んだ理由として、自由回答から「節目や季節感が欲しいから」「目的はわかる」「お年玉として」といった、目的を明確にするためといった回答や、「むき出しは失礼だから」といった、マナーに関する回答が見られた。

4.2.2 場面1に対する韓国人の回答理由

韓国人の回答で最も多かった「多用途の封筒に入れる」理由については複数回答156件中順に、1位「礼儀だから」96件（61.5%）、2位「皆がそうしているから」19件（12.2%）という結果となった。最後に「多用途の封筒に入れる」で「その他」を選んだ理由として、自由回答から「封筒を一つの包装として考える」といった、お金をあげる際に特別感を表すといった回答や、「手に入れやすいから」といった、封筒の手に入れやすさに関する回答が見られた。

2番目に多かった「用途に合った封筒に入れる」については複数回答95件中順に、1位「礼儀だから」64件（67.4%）、2位「見栄えがするから」11件（11.6%）という結果となった。最後に、「用途に合った封筒に入れる」で「その他」を選んだ理由として自由回答から、「特別な感じ」「封筒を一つの包装として考える」「お金をあげるという感じをさらに出すことができる」といった、いずれもお金をあげることへの特別感を表すことに関する回答が見られた。

3番目に多かった「銀行の封筒に入れる」については複数回答92件中順に、1位「礼儀だから」46件（50%）、2位「封筒には意味がないから」14件（15.2%）、3位「相手の負担を減らすため」10件（10.9%）という結果となった。最後に「銀行の封筒に入れる」で「その他」を選んだ理由として、自由回答から「封筒をひとつの包装と考える」といった、お金をあげることへの特別な感じを出すことに関する回答、また「相手のことを考えて」といった相手への気遣いに関す

る回答、「多用途の封筒がないため」といった、選択の余地がないため使用しているという回答、「簡単に手に入るのによく使用する」といった手軽に使用できるという回答が見られた。

4番目に多かった「相手先の銀行に振り込む」理由については複数回答62件中順に、1位「その他」25件（40.3%）、2位「相手の負担を減

らすため」13件（21%）、3位「自分の負担を減らすため」9件（14.5%）という結果となった。なお、「その他」については、「便利だから」という意見があった。最後に「振り込み」に関して「その他」を選んだ理由については表2のとおりである。

「その他」を選んだ理由については表2のとおりである。
 <表2> 場面1の韓国人の回答（相手先の銀行口座に振り込む）理由

①楽だから	②（封筒がない等） 仕方ないから	③距離的な問題 があるから	④速いから
<ul style="list-style-type: none"> ・楽だから ・普段現金を持っていないので ・便利だから ・簡単だから 	<ul style="list-style-type: none"> ・封筒がない場合 ・封筒が買えなかったとき 	<ul style="list-style-type: none"> ・直接渡すのが困難な場合 ・会えない場合 	<ul style="list-style-type: none"> ・速い

おり、①楽だから、②仕方ないから、③距離的な問題があるから、④速いから、の4種類に分類できた。

5番目に多かった「何にも入れずそのままあげる」については、複数回答46件中順に、1位「封筒には意味がないから」と「その他」が共に14件（各30.4%）、2位「相手の負担を減らすため」9件（19.6%）、「自分の負担を減らす

ため」6件（13.0%）という結果となった。なお、「相手先の銀行口座に振り込む」で「その他」を選んだ理由については具体的な回答は得られなかった。

最後に「何にも入れずそのままあげる」で「その他」を選んだ理由については表3のとおりである。

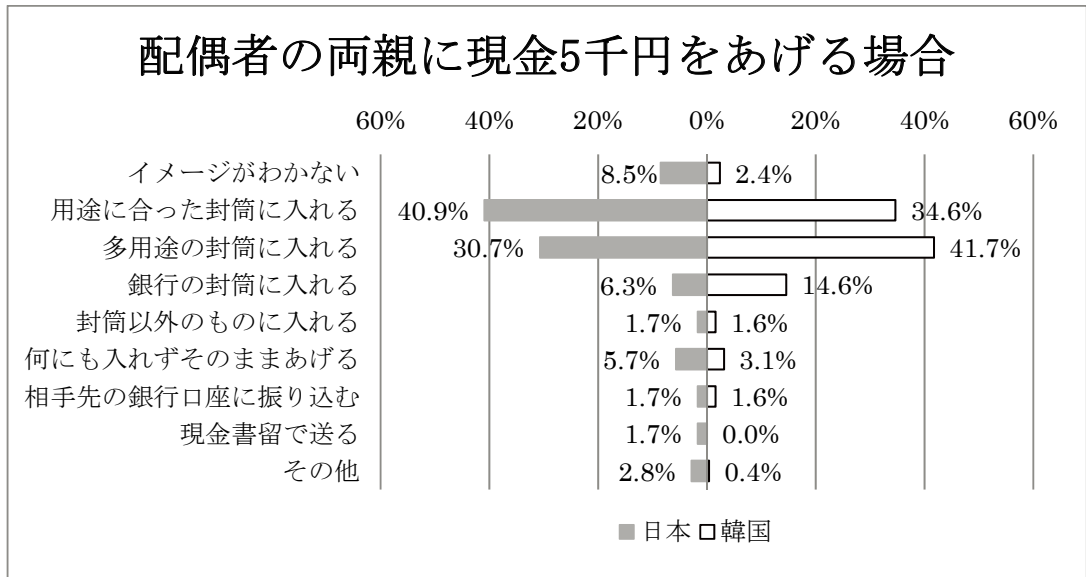
「その他」を選んだ理由については表3のとおりである。
 <表3> 場面1の韓国人の回答（何にも入れずそのままあげる）理由

①（封筒がない等） 仕方ないから	②少額だから	③楽だから
<ul style="list-style-type: none"> ・封筒の準備ができないため ・封筒の準備ができず仕方なく ・ふさわしい封筒が手に入れられず 	<ul style="list-style-type: none"> ・金額が少ないため ・比較的少額だから 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽だから
※複数の理由が含まれる回答 ②少額だから＋必要がないから <ul style="list-style-type: none"> ・5万ウォンはお小遣いとしては少額なので、ただ財布から抜いてテーブルに置く ・封筒に入れるにはとても少額だから ・少額なので、封筒に入れなくても関係なし ・この程度の金額なら特別な意味のあるお金ではないため 		

おり、①仕方ないから、②少額だから③楽だから、の3種類に分類できた。なお、回答によっては、複数の理由にまたがる回答も見られた。

4.3 場面2「配偶者の両親に現金5千円をあげる場合」の日韓意識

場面2「配偶者の両親に現金5千円をあげる場合」のあげ方について、日本人回答者144名からのべ176件、韓国人回答者167名からのべ254件の複数回答を得た。結果は図2のとおりである。



< 図 2 > 配偶者の両親に現金5千円をあげる場合

日本人の回答で最も多かったのは「用途に合った封筒に入れる」72件(40.9%)であった。続いて順に「多用途の封筒に入れる」が54件(30.7%)、「銀行の封筒に入れる」が11件(6.3%)、「何にも入れずそのままあげる」が10件(5.7%)という結果となった。これら上位3位までの回答件数を合計すると77.9%となり、8割弱の回答者が種類にかかわらず「封筒に入れる」傾向があることが分かった。

一方、韓国人の回答で最も多かったのは「多用途の封筒に入れる」が106件(41.7%)であり、続いて順に「用途に合った封筒に入れる」が88件(34.6%)、「銀行の封筒に入れる」が37件(14.6%)という結果となった。これら上位3位までを合計すると90.9%と約9割を占めた。

これらの結果から、種類は異なるものの「封筒に入れる」という回答がほとんどを占めることが分かった。

これらの結果を踏まえ、日韓の回答に共通しているもの、違いが見られるものについて述べる。まず共通点をあげると、日韓いずれも1位および2位の項目は「用途に合った封筒に入れる」「多用途の封筒に入れる」、3位は「銀行の封筒に入れる」となっており、1位から3位までの項目は一致している。また、1位から3位までが全体に占める割合は日本77.9%、韓国90.9%と非常に高いことから、日韓共に配偶者の両親に現金5千円(韓国は5万ウォン)をあげる際には「お金を包む」意識が高いことが分かる。

それに対し、日韓で回答に違いが見られるものについて述べる。まず「何にも入れずそのままあげる」に関して日本人の回答の割合が5.7%であるのに対し、韓国人は3.1%であった。場面1（自身の両親）と比較すると日韓共に全回答に占める割合は極めて低かった。しかし韓国人の場合、若干ではあるが配偶者の両親に現金5万ウォンをあげる際、何にも入れずそのままお金をあげることを避ける傾向があることがうかがえる。ただし、韓国人と比べ日本人は配偶者の両親であっても少額の場合は何にも入れずにそのままあげる傾向があることが分かる。

4.3.1 場面2に対する日本人の回答理由

場面2「配偶者の両親に現金5千円をあげる場合」に対する理由について、日本人の回答を見てみる。

まず、日本人の回答で最も多かった「用途に合った封筒に入れる」理由について、複数回答104件中順に、1位「礼儀だから」(63.5%)、2位「見栄えがするから」(22.1%)という結果となった。なお、「用途に合った封筒に入れる」でその他を選んだ理由として自由回答より「お年玉として」「あげる目的をはっきり」といった、目的を明確にするという回答が見られた。他に「気持ちを伝えるため」といった、封筒に気持ちを込めるといった回答や「むき出しは失礼」といった、マナーに関する回答が見られた。

2番目に回答の多かった「多用途の封筒に入れる」理由については、複数回答73件中「礼儀だから」(56.2%)が過半数を占め、その他の項目はそれぞれ10%に満たなかった。なお「多用途の封筒に入れる」でその他を選んだ理由として、自由回答から「食事代等は慶弔と違い専用の封筒がないため」といった、選択の余地がなく多用途の封筒に入れるという回答がみられた。また「あまり仰々しいと受け手が恐縮して受け取ってくれないかもしれないので」といった、用途に合った封筒に入れると大げさに感じ

られる場合に多用途の封筒に入れるという回答が見られた。

4.3.2 場面2に対する韓国人の回答理由

韓国人の回答で最も多かった「多用途の封筒に入れる」については複数回答118件中順に、1位「礼儀だから」96件(73.3%)、2位「皆がそうしているから」14件(10.7%)という結果となった。2番目に回答が多かった「用途に合った封筒に入れる」の複数回答118件については「礼儀だから」(69.5%)の項目のみが過半数を超え、その他の項目は回答が10%に満たなかった。3番目に回答の多かった「銀行の封筒に入れる」については複数回答46件中、回答が10%を超えた項目は「礼儀だから」(65.2%)のみであり、他の項目は回答が10%以下だった。このことから、韓国人は銀行の封筒に入れることが礼儀だと考えている傾向があることがうかがえる。

4.3.3 場面2に対する日韓意識の違い

「用途に合った封筒に入れる」理由として、日本人の場合は礼儀に加え「見栄えがするから」といった回答が2割強であったのに対し、韓国人の場合は1割弱であった。このことから、韓国人より日本人の方が礼儀に加え、見栄えのために用途に合った封筒に入れる場合が多いことが推測できる。用途に合った封筒に入れるその他の理由としては、自由回答から「特別な感じ」「封筒を一つの包装として考える」といった特別感を表すためという回答、「気軽に使って欲しいから」といった相手への気遣いに関する回答が見られた。

また「多用途の封筒に入れる」理由として、「礼儀だから」という回答については日韓で共通していた。また「皆がそうしているから」という理由については韓国人の回答のみが1割を超えたが、日本人も8.2%の回答があり大きな差があるとは言い難い。多用途の封筒に入れるその

他の理由としては、自由回答から「封筒を一つの包装として考える」といった特別感を表すためという回答が見られた。

さらに「銀行の封筒に入れる」理由として、日韓共に礼儀を理由とする割合が高かった。ただし、韓国人は銀行の封筒に入れて礼儀を表すと考えている回答者がいる反面、日本人の場合は現金をあげる際に「銀行の封筒に入れる」と回答した割合が韓国人の半分以下だったことから、日本人は銀行の封筒に入れてお金をあげることで自分を避ける可能性も考えられる。

5. 日韓のお金のあげ方に関する考察

本調査の結果から、日韓の少額のお金のあげ方に関する意識の違いについて考察する。

5.1 日韓のお金のあげ方に関する意識の違い

日韓の少額のお金のあげ方に関する意識の違いについて、親疎関係、封筒の種類、金融機関の振込の利用に注目し考察する。

5.1.1 親疎関係によるお金のあげ方の日韓意識

日本人の少額のお金のあげ方に関する意識について日韓でその傾向を比較してみる。まず場面1における「自身の両親に5千円をあげる」に対して、「何にも入れずそのままあげる」と回答した日本人は3割弱であった。例えば自由回答から、

「自身の両親に渡すときは、形式的なものは逆に堅苦しくなるので金額に関わらず不要だと考えている。ただ、お年玉のように季節を感じられるような場合はそれに見合った渡し方のほうが、相手も自分も楽しめる。」

といった、普段はお金を包まなくてもよいと考えている一方で、特別な行事がある場合はお金

を何らかに包むといった意見や、

「自身の両親に現金をあげるとしたら、両親がタクシー代や食事代など、その場で払おうとした時や払った時などに少しでも足しにもらうために、現金をそのまま渡します。」

といった、急な場面では何にも入れずそのままあげるという意見も見られた。しかし、場面2「配偶者の両親に5千円をあげる」場面に対して、「何にも入れずそのままあげる」と回答した日本人は約6%と低くなった。一方「用途に合った封筒に入れる」に対しては回答が4割弱、「多用途の封筒に入れる」が3割強と高くなり、封筒に包むと答えた回答は8割弱であった。他にも自由回答より、

「結婚相手の両親には、どのような場合でも礼儀を尽くす必要があると思う。相手側から『そんなにしなくても』との気遣いをいただいた場合には、礼節をわきまえた範囲で緩く考えても良いと思う。」

のように、配偶者の両親には包むべきであるといった意見も見られた。その他、「世代にもよると思うのですが(私は1950年代)、現金をそのまま渡すのは失礼なことだと教えられているので、たとえ両親であってもお祝いやお小遣いなどは封筒に入れて渡すのが一般的だと思っております。」

「お金をむき出しであげる場面は年下の子供以外はなかなかないかと思いました。」

「基本的にお金を裸のまま相手(誰であるかを問わず)に渡す、という習慣がありません。」

「自分の妻、子供以外にはお金を渡す場合は封筒で渡すと思います。そのまま渡すと、品が

ない、相手ももらいにくい、お金を渡すという行為が強調される（どぎつくなる）と考えられるからかもしれません。』

といった自身の両親であってもお金を包むべきであるといった意見も見られた。すなわち、日本人は自身の両親であっても何かしらの封筒に包むべきだと考える意見が多く見られたものの、中には少額であれば何にも包まなくてもよいと考える回答者も少なからず見られた。また配偶者の両親に対しては、少額であってもお金は何かしらの封筒に包むべき、と考える傾向があることが分かった。

これは、日本の「ウチ・ソト」の関係が起因しているものと推測されるが、本稿ではそれについては明らかにすることは出来なかった。このように日本人は自身の両親の場合、少額であれば包まなくてもよいという意識を持つ割合が高いのに対し、配偶者の両親の場合はお金を包むべきと考える割合が高いことが分かった。

一方、韓国人の場合、場面1「自身の両親に5千円をあげる」場合には多用途の封筒、用途に合った封筒、銀行の封筒、いずれかの封筒に包むと回答した割合が7割を超えた。さらに、場面2の「配偶者の両親に5千円をあげる」場合には、ほぼ9割が封筒の種類にかかわらず何かしらに包むと回答した。なお自由回答から、

「義理の両親には結婚前であれ年長者に現金をあげる場合は一般的に封筒に入れる。結婚後も同様。」

「年長者に現金をあげる場合、普通は封筒に入れてあげる。それは礼儀だと思う。」

「現金をあげる場合、形式を重んじなければならぬ場合や礼儀をわきまなければならぬ相手には、基本的に相手に現金が見えないように白封筒に入れてあげる。あるいはその状況に

あった封筒に入れる。」

といった、配偶者の両親には封筒に包むのが礼儀であると考えた意見が見られた。これらの結果から、韓国人は少額のお金をあげる場合でも自身の両親、配偶者の両親いずれも、封筒の種類に関わらずお金を包む意識を持っていることが分かった。これは、韓国での年齢や上下関係に関する接し方に起因するものと推測されるが、本稿ではお金の包み方との関連性については明らかに出来なかった。

5.1.2 お金を包む封筒の種類に関する日韓意識

少額のお金を包む封筒の種類に関し、日韓の意識の違いについて比較してみる。まず使用する封筒の種類について、日本人からは場面1（自身の両親）において「多用途の封筒に入れる」が3割強、「用途に合った封筒に入れる」が2割強の回答があり、これら2種類を合計すると回答の約5割を占めた。つまり自身の両親にお金を包んであげる場合、これらの2種類の封筒に対する使用意識に差がないことが分かった。しかし、場面2（配偶者の両親）では、「用途に合った封筒に入れる」が4割強、「多用途の封筒に入れる」が3割強の回答があり、これら2種類を合計すると回答の約7割を占めた。すなわち、日本人は自身の両親（場面1）に比べ、配偶者の両親（場面2）に対して用途に合った封筒を使用する意識が高くなっていることが分かった。

一方、韓国人回答者は場面1（自身の両親）において、「多用途の封筒に入れる」が3割強、「用途に合った封筒に入れる」が約2割と回答し、これら2種類の封筒に入れると回答した割合は5割強を占めた。また場面2（配偶者の両親）においても、「多用途の封筒に入れる」が4割強、「用途に合った封筒に入れる」が3割強と回答しており、これら2種類の封筒に入れ

ると回答した割合は約8割を占めた。これらの結果から、韓国人は自身の両親、配偶者の両親のいずれも、多用途の封筒、用途に合った封筒の順にお金を包む意識を持っていることが分かった。さらに韓国人は自身の両親、配偶者の両親のどちらに対しても、若干ではあるが多用途の封筒の使用意識が強いことがうかがえた。

さらに、銀行の封筒の使用意識に注目すると、日本人は場面1（自身の両親）および場面2（配偶者の両親）において1割弱が銀行の封筒に入ると回答しており、自身の両親、配偶者の両親どちらに対しても銀行の封筒に入ると回答した割合は低かった。一方、韓国人は場面1（自身の両親）では約2割、場面2では約15%の回答があり、日本人に比べ自身の両親、配偶者の両親どちらに対しても銀行の封筒に入ると回答した割合が高かった。これらの結果から、日本人は少額のお金をあげる際に銀行の封筒の使用を避ける傾向があるが、韓国人は自身の両親、配偶者の両親どちらにも、銀行の封筒にお金を包む意識を持っていることがうかがえた。ただし、その理由については本稿では明らかにできなかったため今後の課題となった。

5.1.3 金融機関の振込の利用に関する日韓意識

少額のお金をあげる際の金融機関の振込の利用に関する日韓意識の違いについて比較する。まず日本人について見てみると、場面1（自身の両親）において「相手先の銀行口座に振り込む」と回答したのは約4%であった。また、場面2（配偶者の両親）では約2%となっており、いずれも低い割合となった。一方、韓国人を見てみると、場面1（自身の両親）においては約14%であったが、場面2（配偶者の両親）では約2%となっており、場面1（自身の両親）に比べ場面2（配偶者の両親）の回答の割合が低

くなった。これらの結果から、日本人は自身の両親、配偶者の両親どちらに対しても、少額のお金をあげる際には振込という手段を選択しない傾向があることが分かる。一方、韓国人はお金が少額の場合、自身の両親には振込を選択する場合もあるが、配偶者の両親に対しては振込を控える傾向が見られた。このことについては、韓国人の自由回答から、

「お金をあげる時、振込や現金をよく利用する。現金をあげる場合、形式を重んじなければならない場合や礼儀をわきまなければならない相手には基本的に相手に現金が見えないように白封筒に入れてあげる。あるいはその状況にあった封筒に入れる。振込を利用するのは、持ち合わせがなかったり会えない等の理由がある場合。」

といった、形式や礼儀を重んじる相手には振込を避けたり、現金を直接あげられない場合に振込を選択するという意見もあった。また、

「最近ではネットバンキングや携帯電話アプリで振込が容易にできるため利用する」

「最近ではカカオペイやネイバーペイ、トス⁷、インターネットバンキングで振り込む。」

という意見が多数あったことから、日韓で少額のお金をあげる場合に金融機関の振込を利用する意識が日本と異なることが推測された。総務省（2016）による「決済・送金サービスの認知度・使用意向・利用率に関する調査」によると、日韓の30代から60代までの決済・送金サービスの認知度の平均は日本が73%、韓国は97%であった。また利用率は日本が29.3%、韓国は66.3%となっており、韓国は日本に比べ決

7 スマートフォンアプリを利用した決済サービス。

済サービスの認知度・利用率が共に高いことも、その理由として考えられるのではないだろうか。ただし、今回はあげる金額を少額に設定したが、金額がさらに高い場合に日韓意識にどのような違いが見られるのかについては今後の課題として残った。

5.2 日韓のお金のあげ方に関する理由の違い

日韓の少額のお金のあげ方に関する理由の違いについて、「礼儀」と「見栄え」に注目し考察する。

5.2.1 お金をあげる際の「礼儀」に関する日韓意識

少額のお金のあげ方に関する理由の中で「礼

儀」について日韓で比較してみる。まず「多用途の封筒に入れる」理由として「礼儀だから」と考えているのは、日本人の場合、場面1（自身の両親）に対しては全体の3割程度だったものの、場面2（配偶者の両親）に対しては5割を超えている。一方、韓国人の場合、場面1（自身の両親）では全体の6割程度を占めており、さらに場面2（配偶者の両親）では7割を超えている。

また「用途に合った封筒に入れる」理由として「礼儀だから」と回答した割合は、日本人の場合、場面1（自身の両親）、場面2（配偶者の両親）いずれに対しても6割前後であった。一方、韓国人の場合、場面1（自身の両親）、場面2（配偶者の両親）いずれも、日本人よりも多い7割弱を占めていた。（表4）

＜表4＞封筒の使用に「礼儀だから」と回答した割合

	場面1（件数）	場面2（件数）
	上：日本人 下：韓国人	上：日本人 下：韓国人
多用途の封筒に入れる	30/83(36.1%)	41/73(56.2%)
	96/156(61.5%)	96/131(73.3%)
用途にあった封筒に入れる	41/70(58.6%)	66/104(63.5%)
	64/95(67.4%)	82/118(69.5%)

以上から、封筒使用について5.1.1でも触れたとおり、日本人はウチとソト、韓国人は自身よりも目上・年上の存在によって包み方を判断しているのではないだろうか。また、日本人はお金をあげる目的や対象によって、用途別に封筒にもこだわる傾向があるかもしれない。それに対し、韓国人にとっては5.1.2で述べたとおり、お金を包むこと自体を礼儀として考えており、封筒の種類にはこだわらないといった可能性がある。ただし、私見ではあるが筆者らは韓国居住経験上、韓国では日本に比べ用途別封筒の種

類が豊富ではないと感じたこともあり、それ自体が理由となっている場合も考えられる。いずれにせよ封筒の種類における日韓の「礼儀」に関する意識の違いは今後の研究課題と言える。

5.2.2 お金をあげる際の「見栄え」に関する日韓意識

本調査の結果から、少額のお金をあげる際に封筒に入れる理由について、「見栄え」に関する日韓意識の差異がうかがえた。「用途に合った封筒に入れる」に対する理由として「見栄え

がするから」を選択したのは、場面1（自身の両親）に対して、日本人は約24%、韓国人は1割強の回答があった。また場面2（配偶者の両親）に対しても日本人は2割強、韓国人は1割弱であった。これらの結果から、少額のお金をあげる際に「用途にあった封筒」に入れる理由として、自身の両親、配偶者の両親のいずれに対しても、若干ではあるが日本人は韓国人よりも1割程度「見栄え」に対する回答の割合が高いことが分かる。

以上から、少額のお金をあげる際に封筒に入れる理由として、韓国人に比べ日本人の方が「見栄え」を気にする可能性がある。ただし、韓国人回答者の自由回答から「特別な日と、金額が大きい時は見栄えがするように準備したきれいな封筒に入れてあげる。」といった意見もあったが、本稿では「見栄え」に関する日韓意識の違いについて明らかにできなかった。

おわりに

本稿では、自身の両親と配偶者の両親に5千円（韓国は5万ウォン）をあげる場面を設定し、そのあげ方と理由について、日本人ならびに韓国人にそれぞれ調査を行った。その結果をもとに、お金のあげ方に対する日韓での意識の差異について考察した。結果は以下の通りである。

まず、日本人ならびに韓国人いずれも、多用途にせよ、用途に合った封筒にせよ、自身の両親に少額のお金をあげる際には「お金を包む」意識を持っている割合が高いことが分かった。ただし、日本人はお金をあげる対象との関係性が遠いほど用途に合った封筒を使用する傾向があるのに対し、韓国人はその関係性に関わらず多用途の封筒を使用する傾向が見られた。以上から、日本人は自身とあげる対象との関係性によってお金の包み方を変えていると考えられるが、韓国人は包むこと自体に気を使うものの、封筒の種類については区別しない可能性がある。また、銀行の封筒に入れてお金をあげる回

答も少なからず見られた。

次に、自身の両親に少額のお金をあげる場合、韓国人は相手の口座に振り込む割合が日本人よりも高かった。日本人は自身との関係が近いと何にも入れずにあげる割合が高くなるのに対し、韓国人は銀行封筒の使用や振り込みの割合が高かった。このことから、韓国人はスピードや手軽さといった利便性を重視する傾向があることがうかがえる。

さらに、自身の両親に少額のお金をあげる場合について述べると、韓国人は自身とお金をあげる対象との関係性に関わらず封筒に入れる割合が高かった。それに対し、日本人は包むと答えた割合が多かった一方で、包まないと答えた割合も一定数見られ、韓国人よりもその割合が高かった。ただし、日本人はお金をあげる対象が配偶者の両親になると、包まないと回答した割合が非常に低くなったことから、お金のあげ方はあげる対象の年齢や自身との関係性により変化する傾向が見られた。このことから、日本人はお金をあげる対象との関係性（ウチ・ソト）、そして韓国人はお金をあげる対象との上下関係であげ方が変化すると推察された。

もし仮に韓国人が銀行の封筒に入れて日本人にお金をあげた場合、日本人は違和感を感じ、反対に日本人が用途に合った封筒に入れて韓国人にお金をあげた場合、韓国人にはその封筒自体が意味をなさない可能性がある。

このように日韓における接触場面では様々な誤解を生むことが想定され、その後の人間関係に支障をきたすこともありうる。しかし、あらかじめ数多く存在する日韓の接触場面の中で互いの意識差異を理解することで、摩擦や誤解を最小限にとどめることが出来るのではないだろうか。

ただし、本稿では金額が5千円（韓国は5万ウォン）と比較的少額であったことから、あげる金額によっても結果が異なることが予想される。また、お金をあげる対象が自身および配偶

者の両親であったため、その対象によってあげ方がどのように変化するかについては今後の課題となった。さらに本稿ではお金のあげ手の意識差異について論じたが、受け手の意識についても今後のさらなる研究が望まれる。

<参考文献>

日本

論文

深澤琴絵、植田憲、朴燦一、宮崎清、樋口孝之（2007）

「飛鳥から平安時代における「包み」の文化：「風呂敷」の語源とその前史」『デザイン学研究』54（4），pp47-56, 日本デザイン学会

松本拓磨（2011）「贈り物の包装から見る、心の空間について」『京都大学大学院教育学研究科紀要』57, pp323-335. 京都大学大学院教育学研究科

書籍

任栄哲、井出里咲子（2004）『箸とチョッカラク』大修館書店

韓国

論文

박영주（2000）「극동 3 국의 포장 문화 비교 : 선물용 패키지를 중심으로」『기초조형학연구』1-1, pp.75-84, 한국기초조형학회

정월순·김화영（2012）「일본의 포장문화 형성배경에 관한 연구= 日本の包装文化の形成背景に関する研究」『일본문화연구』42, pp471-493, 동아시아일본학회

書籍

임영철（2008）『한국어와 일본어, 그리고 일본인과의 커뮤니케이션』태학사

ウェブサイト

総務省（2016）「平成28年版情報通信白書」p134

< <http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h28/pdf/n3100000.pdf> >
（2017年11月30日閲覧）

（青森中央学院大学 経営法学部 専任講師 おおもり しん）
（立命館アジア太平洋大学 言語教育センター 非常勤講師 しぶや まさえ）